

二部地区活性化だより

野上川の風

発行
二部地区活性化推進機構

編集会
総務部会

事務局

〒689-4233
西伯郡伯耆町二部1562-1
二部公民館内
TEL・FAX 0859-62-7159



●郷原春日神社秋祭り

浦安の舞

浦安の舞は紀元二千六百年の奉祝記念に昭和天皇の御製を元宮内楽部多忠朝氏が作曲振り付けされたものである。

御製

天地の神にいのる朝なぎの
海のごとくに波たたぬ世を

天の神、地の神様にお祈りいたしま
す朝なぎのような穏やかな海に波が立
たない世の中をお願いします。

右記の様な意味と考えます。

うらハ心ノ義ニテ、やすハ安ノ義
ナリ。心中(裏)の平安ナルヲ謂フ。

浦安とは心の安らかという意味で、平
和を祈る心の舞である。古く日本の国
名を浦安の国といったのは風土が美し
く平和であったからである。

浦安の舞は、昭和天皇の平和への願い
を後世に伝える舞である。

二部神社備宣 安江

平成20年度事業計画

今年には本会設立10周年の節目の年であり、地域住民各位の一層の信頼と多岐に亘るニーズに対応できる会の運営を目指します。

その為、昨年度から伯耆町の応援も頂きながら取り組んで来ました。組織再編やファンクラブ設立等の地域発展対策の検討委員会からの提案を基に、次の通り事業計画案を採択しました。

新年度の最重要課題は、第一に各集落から選任いただく部落推薦委員を規約改正して大幅増員することであり、今一つは二部地区に活力を呼び戻すための二部地区ファンクラブ組織部会を立ち上げることであります。なお提案のあった人材バンク設立対応は今年一ヵ年をかけてそのあり方を研究することといたしました。

既存部会には新規事業も加えた事業計画を下記により策定しました。

部会別事業計画 (印は新規事業)

1. 総務部会

- ア 会報「野上川の風」年2回発行
- イ 先進地視察(1泊2日)
- ウ 地域自治体制の継続検討
- エ むらづくり講演会の開催
- オ 女性の意見を聞く会開催
- カ 「出雲街道今昔物語」日本海新聞連載支援

2. 産業振興部会

- ア 畦畔草の植栽推進
- イ 特産物の育成集荷、山菜会支援
- ウ 有機栽培取り組み
- エ 優良品種(米)展示・賞味会開催
- オ 盆花栽培

3. 住みよい環境部会

- ア 河川のヨシ刈りボランティアの推進
- イ ゴミ減量作戦への協力(看板作成)
- ウ 道路・河川の一斉清掃(春、秋2回)

4. 趣味と生きがい部会

- ア たたらまつり、高齢者学級への協力
- イ 各種同好会活動の支援
(ひょうたん・ドーム菊・福助菊・野菜等)
- ウ おもちゃ南瓜種・菜の花の種配布
- エ 二部谷風景写真等の刊行(コンテスト継続)

5. 健康スポーツ部会

- ア 町民運動会二部地区大会への協力
- イ 二部地区健康ウォーキング開催
- ウ 健康講演会の開催
- エ ニュースポーツ教室の開催

6. 福祉ボランティア部会

- ア 高齢者、障害者への支援活動
- イ 学校行事への連携協力
- ウ 介護実習の体験教室開催(畑池、福岡地区)

7. ファンクラブ部会

- ア 二部地区の情報発信
- イ アンケート調査と会員募集
- ウ 交流イベントの検討実施
- エ ふるさと小包の発送

平成19年度収支決算書

収入総額	588,629円
支出総額	219,110円
差し引き	369,519円 (20年度に繰越)

収入の部

科 目	決 算 額	摘 要
会 費	184,000	368世帯×500円
補助金・交付金	100,000	県補助金100,000円
繰 越 金	293,234	
雑 収 入	11,395	利息360円、視察研修費11,035円
合 計	588,629	

支出の部

科 目	決 算 額	摘 要
会 議 費	0	
事 業 費	199,110	総務部費 104,500円 産業振興部費 14,585円 住みよい環境部費 114円 趣味と生きがい部費 37,700円 健康スポーツ部費 15,250円 福祉ボランティア部費 24,811円 新規事業準備費 2,150円
視察研修費	15,000	先進地視察参加者31名(飯南町)
事務局費	0	
雑 費	0	
予 備 費	5,000	記念品代
合 計	219,110	

平成20年度収支予算書

収入総額	757,000円
支出総額	757,000円
差し引き	0円

収入の部

科 目	予 算 額	摘 要
会 費	200,000	400世帯×500円
補助金・交付金	187,000	県補助金100,000円、町交付金87,000円
繰 越 金	369,519	
雑 収 入	481	預金利子等
合 計	757,000	

支出の部

科 目	予 算 額	摘 要
会 議 費	20,000	
事 業 費	550,000	総務部費 160,000円 産業振興部費 100,000円 住みよい環境部費 40,000円 趣味と生きがい部費 100,000円 健康スポーツ部費 65,000円 福祉ボランティア部費 25,000円 新規事業準備費 10,000円 ファンクラブ部費 60,000円
視察研修費	100,000	
事務局費	40,000	コピー機リース・トナー・紙等
雑 費	7,000	
予 備 費	40,000	
合 計	757,000	

東京からの団体ツアー客

● 安達 允

七月二十九日二部地区に、東京から多人数のグループの訪問がありました。鳥取県中西部の歴史や風物探訪（二泊三日）のためです。かなり以前から話しがあり、二部公民館の全面的な協力があったて、一四ページの資料を作り準備しました。当日午前出雲空港に到着、当地に直行ということで、私は町内の昼食の場所でお会いしました。一行は約三〇人、中高年の男女半々ぐらいで、予想していた鳥取県出身者は一人もありませんでした。バスに同乗して沿線のあれこれを説明し、傳燈寺前で下車、「四代目朝日山四郎衛門の墓」「足羽第之介の墓」

を見て「旧本陣足羽家」を訪れました。一七代当主喜代子様が九五歳の高齡でよく家を守り、ものごとくに積極的に取組んで居られる生きざまに、深い感動を覚えた人が多かったようです。たたら会館では資料により、出雲街道の役割・本陣のこと・二部宿の繁昌の様子・さまざまな人間模様や多くの出来ごとなどを、一時間近く話しました。旅行になれた人々ですが見聞するものすべてが珍しかったようで、非常に喜んでいただいたのは、嬉しいことでした。それから「拓士の像」「宮の鼻の道標」を見て間地に向かい、「ウナギ井手跡」「田代入口」「間地峠入口」



傳燈寺にて

を説明して一行と別れました。次は金持神社にお詣りすることでした。このごろ外來のグループを案内することが時々ありますが、東京からのしかも多人数の団体は初めてでした。このツアーを企画した旅行社の人は、このように貴重なものが数多く残り、歴史を色濃く感じられるところは珍しいと絶賛しておりました。一部周辺にある歴史的文化的遺産や伝承は、土地に住むものにとつて共通の宝ともいえるべきものです。その価値を知って大切に保存し、後々まで語りついでゆきたいものです。

● 役員名簿 ● (平成20年～)

会 長	住田 泰
副 会 長	谷口 包夫、白根 暢之、樋口 春子
監 事	中田 英明、谷口みどり
事 務 局 長	石田 励次
書 記 会 計	片平 道也、中田 貴子
部 会 長	田邊 公教、車 睦宏、影山 辰雄、福吉 艶子、大森 英一、中田 壽國、藤田 常雄
副 部 会 長	仲村 一男、森下 駿視、畑 嘉夫、仲田 稜子、南葉 克宏、安田 紀恵、其山 守美
副 部 会 長	足澤 秀基
顧 問	安達 允

● 部会別委員分担表 ●

◎部会長 ○副部会長

総 務 部	◎田邊 公教、○仲村 一男 加藤 正純、和田 正純、安達 良文、中田 瑞穂、生田 照子、永井 欣也、西脇 秀之
産 業 振 興	◎車 睦宏、○森下 駿視 杉原 弘徳、田村 清、細田 朋子、南葉 正明、山本 厚子、忠田 延雄、金田 宏 梶岡晋二郎、沢田 清生、花田 学
住みよい環境	◎影山 辰雄、○畑 嘉夫 梅原 司万、田中三智子、福島 久正、須村 延幸、西村 喜伴、奥田 薫男、石田 亜矢
趣味と生きがい	◎福吉 艶子、○仲田 稜子 米原由紀人、杉田日出子、中田 京子、影山由喜子、山口 代子
健康スポーツ	◎大森 英一、○南葉 克宏 住田 浩平、南波 英昭、舟越 康夫、高橋 縁、住田 明穂、米原 忍、八橋 昭夫
福祉ボランティア	◎中田 壽國、○安田 紀恵 長田 千歳、向田 忠義、中田 英明、白根貴美枝、池本 香代、米原 五月
ファンクラブ	◎藤田 常雄、○其山 守美、○足澤 秀基 南葉 一枝、和泉 克司、岡村 昌好、安藤 正治、影山千世子、三島 透

ファンクラブについて

●ファンクラブ部長 藤山 常雄

今年度総会で新たな部会として「ファンクラブ部会」が設置されました。設置の経過及びどんな活動をしようとしているのかお知らせ致します。

【設置の経過】

二部地区活性化推進機構も設置から一〇年を迎えるのに、まだ地域に活力が出たと言えるのだろうか。機構自体のあり方はどうか、との反省から、一九年度に「組織再編検討委員会」と二部地区出身で町外にお住まいの方との交流を深めたらと「二部地区ファンクラブ検討委員会」の二つの特別委員会を設け、検討いただき今年三月二十八日に答申をいただきました。答申の要旨は次の通りです。

二部地区ファンクラブ事業実施に向けて（提案）

目的、二部地区は少子高齢化、人口減少は更に進行し、集落によって存続も危ぶまれる集落もある。このような状況を踏まえ、二部地区出身の方々と密接な連携、交流活動を行い、また提案、提言をいただいて、地区の活性化の推進をはかる。

出身者名簿は個人情報であり取扱には細心の注意をはかること。

出身者との連携についてはまず①アンケートを実施し出身者の意向を

知る。②情報等の提供をスムーズに行うため、会員制とする。③会員の方にはイベント等への参加や農産物へのニーズ等をお知らせいただくとともに二部地区のPRをお願いし、I・U・J・タウンの情報があれば提供をお願いする。

そこで二部地区から町外に出ておられる方に二部の活性化に協力をいただきたいと思います。

二部地区に居れば気付かなかった点や、資源の活用、イベントの提案等々外からのご指摘、ご指導をいただき、二部地区の活性化につながればと考えております。

子供やお年寄をはじめすべての人が元気になる外に出て故郷は「二部」と声を大にして言える地域にしたいものと思っておりますので、二部にお住いの方二部出身の方の参加、協力をお願い致します。

【今年の取組】

ファンクラブ部会では今年度二部出身の方へ二部の情報として活性化推進機構の情報紙「野上川の風」や「町の広報紙」や、地区で行われるイベント等の案内をさせていただきます。

また、出身者の方にアンケートも実施させていただき、将来はご希望の方に地元の産品が届けられればと準備を進めていきますので何分よろしく願いいたします。

活動日誌メモ

(内 容)

月 日	平成二十年
四、三	新旧事務局長引継ぎ
四、二	山菜部会打合せ
四、一	役員会
四、一六	(特別委員会答申案採択)
四、二二	山菜部会打合せ
四、二三	山菜出荷始め
四、三〇	区長協議会出席(会長)
五、一	部会別会議
五、一九	山菜部会打合せ
五、二二	住みよい環境部会役員会
五、二九	(活動方針、総会協議)
六、一	第三回山菜部会
六、一	出雲街道今昔物語館開館開始
六、一	委員総会 実出席
六、一	三六名参加
六、一	出雲街道今昔物語館開館開始
六、一	委員総会 実出席
六、一	三五名参加
六、一	坂本 誠氏
六、一	ボランティア部会
六、一	(みるくの里) 五名参加
六、二	山菜最終集荷
六、二五	道路河川一斉清掃(前期)
六、二五	一九四名参加
七、四	野上川ヨシ刈り打合せ
七、七	山菜出荷事業打合せ
七、七	(反省点・改善点)
七、二二	役員会
七、二二	(新役員体制・臨時会)
七、二二	臨時委員総会(役員改選・二部地区アンケート実施)

月 日

(内 容)

七、二七	健康講演会「メタボリックシンドロームを予防していつまでも健康に」 西部総合事務所福祉保健局 大城陽子氏
七、二九	クラブツーリズム(東京) 二部宿歴史散策ツアー
八、五	健康講演会「メタボリックシンドロームを予防していつまでも健康に」 西部総合事務所福祉保健局 大城陽子氏
八、六	健康講演会「メタボリックシンドロームを予防していつまでも健康に」 西部総合事務所福祉保健局 大城陽子氏
八、一七	野上川ヨシ刈りボランティア
八、二四	野上川ヨシ刈りボランティア
八、二八	出雲街道今昔物語館打合せ
八、二九	健康スポーツ部会研修
八、二九	(B&G海洋センター)
九、五	総務部会・ファンクラブ部会打合せ
九、末	会報一六号編集打合せ
九、末	会報一六号 発行配布

あどがき

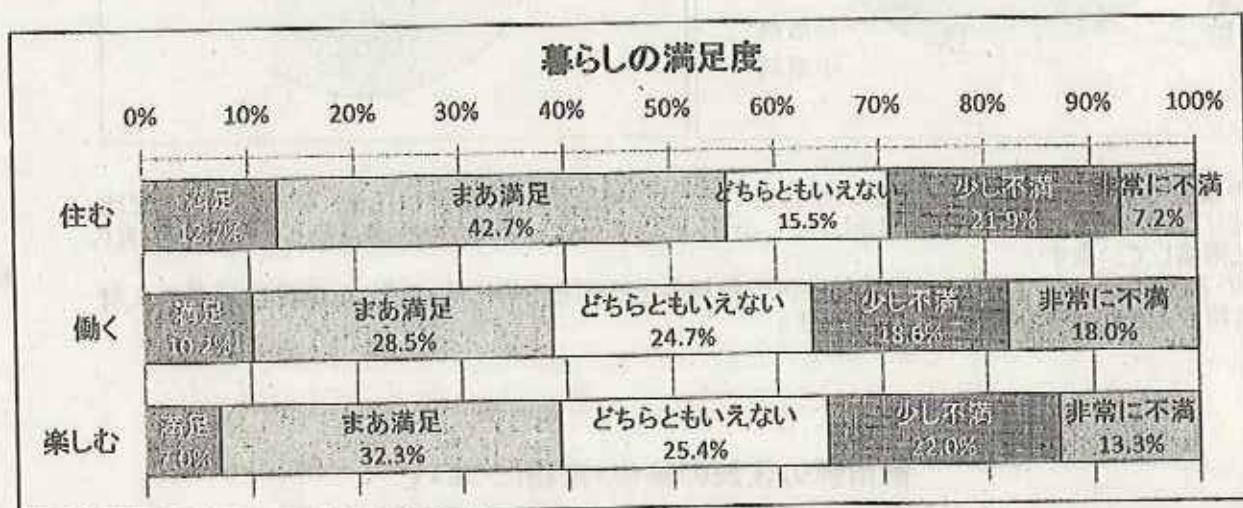
今年の夏は例年になく大変な暑い日が続きましたが、九月も半ばを過ぎ朝夕めっきり涼しくなりました。稲の刈り取りも最盛期を迎えました。豊作であることを期待したいと思えます。平成二十年度委員総会で新規の事業も計画されました。また新しい役員体制と事務局も変わりました。これからの二部地区活性化推進機構の活動に期待したいと思えます。二部地区の皆様方のご協力と支援をよろしくお願いいたします。

二部地区アンケート調査結果(速報版)

財団法人とっとり政策総合研究センター 坂本誠
NPO学生人材バンク 藤田良子

このたびは、お盆前後のお忙しいなか、アンケートにご協力いただき、まことにありがとうございました。おかげさまで、338世帯862名の方にご協力をいただくことができました。ただいまアンケートの集計分析を進めているところですが、速報版が完成しましたので、さっそくお届けいたします。

紙幅に限りがありますので、ここにお示しするのは、ごく一部の集計結果です。詳しくは、今後二部公民館で報告会を実施の予定です。



「住む(住環境)」については、満足度は比較的高いのですが、「働く(就業機会)」「楽しむ(娯楽)」の項目で、満足度が低いことがわかりました。

二部地区に住み続けていくうえでの問題点・悩み

	第1位	第2位	第3位
全体	身近に買い物できる場所がない	病院や買い物への交通が不便	台風などの災害 もう少し生活費に余裕がほしい
男計	身近に買い物できる場所がない	台風などの災害	病院や買い物への交通が不便
女計	身近に買い物できる場所がない	病院や買い物への交通が不便	もう少し生活費に余裕がほしい
20代以下	身近に買い物できる場所がない	もう少し生活費に余裕がほしい	さるやいのししの被害
30代	もう少し生活費に余裕がほしい	身近に買い物できる場所がない	仲間と気軽に集まる場所がない
40代	もう少し生活費に余裕がほしい	身近に買い物できる場所がない	学校が遠く、子どもの通学が不便
50代	台風などの災害	もう少し生活費に余裕がほしい	身近に買い物できる場所がない
60代	台風などの災害	農地や山の管理	病院や買い物への交通が不便
70代	病院や買い物への交通が不便	身近に買い物できる場所がない	農地や山の管理
80以上	身近に買い物できる場所がない	病院や買い物への交通が不便	台風などの災害

世代や性別によって、抱える課題、地域に対する思いや関わりの違いがあることがわかりました。

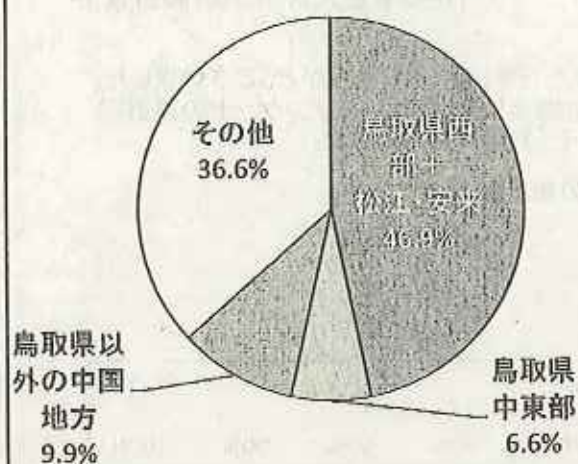
特に世代による傾向の違いは顕著です。

高齢者は、生活交通や、農地・山の管理を中心に不満や不安を感じているようです。

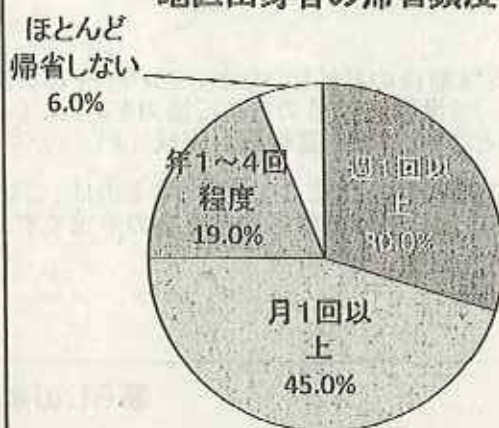
一方、若者からは、子育てや教育に関する不安、仲間と気軽に集える場所が欲しいという要望が多く聞かれました。

(裏面もあります→)

二部地区出身者の現住所



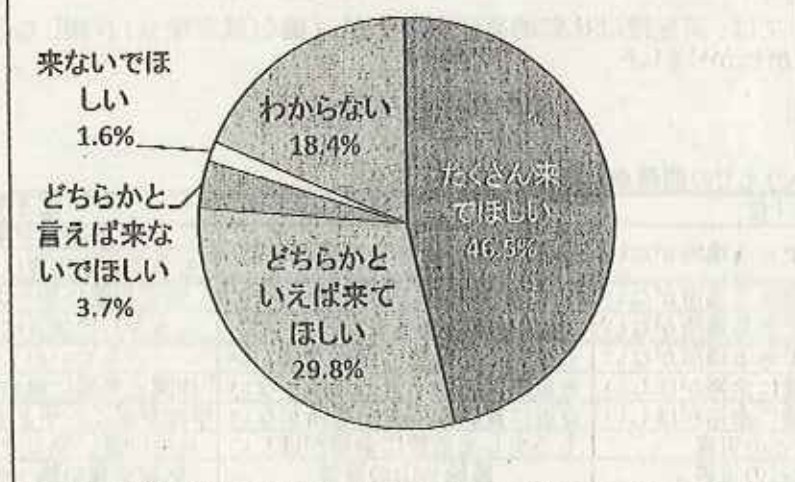
鳥取県西部+松江・安来在住の地区出身者の帰省頻度



今回の調査で把握できた地区出身者の半数近くが、鳥取県東部や島根県松江市・安来市周辺など比較的近辺に居住していることがわかりました。しかも、近辺に居住している地区出身者の4分の3が、月に1回以上帰省しています。

人口減・高齢化が進行するなかで、二部地区の維持存続を図るためには、こうした地区出身者の人材をどう活用するかがポイントだと考えられます。

都市部の住民の移住・来訪について



都市部の住民の移住や来訪については、歓迎する意見が、4分の3以上を占めました。都市との交流、さらに移住者を迎え入れるにあたって、どのような課題があるのか、これから考えていく必要があります。